

金属球入りのボール使い



公認審判員を招いて、サウンドテーブルテニスのルールを学ぶ参加者＝さくらピアで

昨年7月には愛知県盲人福祉連合会の大会に出場したものの、基本が完全

あるなら運動不足解消に使おうと、昨年4月にグループ「鈴虫」を立ち上げ、使用を始めた。

ルールもよく分からず、自己流ながらもメン

バー15人が月2回練習。

昨年7月には愛知県盲人福祉連合会の大会に出場

でないこともあり、芳しい成績を収めることができなかった。「これではいけない」と同館の協力を仰ぎ、今回、一から基礎を学ぶことにした。

この日は、公認審判員の難波昇さん（名古屋市）を招き、鈴虫のメンバーや希望する視覚障害者、視覚障害者ガイドヘルプかるがも会員らが、STTの基本ルールを勉強した。直径40ミリのボールを使い、音が響くようにラバーの無いラケットで打つもので、順番に試合も体験。プレーヤーはもちろん、ボランティアも審判ができるよう、実践練習を重ねながら細かいルールを熱心に勉強した。

音を頼りにラリー

橋さくらピア

視覚障害者卓球の講習会

豊さくらピア

金属球入りのボールを使ってネットの下を転がし、音を頼りにラリーを続ける、視覚障害者卓球「サウンドテーブルテニス（STT）」の講習会が15日、豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」のボランティア室で開かれた。市内の視覚障害者10人と家族やボランティアら計19人が参加、公認審判員からルールの説明やゲームの仕方を学んだ。

（田中博子）

平成 29 年 4 月 16 日（日）

東愛知新聞